

会議録

会議の名称	第1回西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成26年6月30日 午後2時から午後4時まで
開催場所	第1・2講座室（エコプラザ西東京）
出席者	委員：山谷会長、一方井副会長、福田委員、石井委員、笠原委員、利光委員、草野委員、青木委員、池田委員、三澤委員、木内委員、小沼委員、戸部委員 事務局：湊部長、山本課長、遠藤係長、都築主査、三村技能主任、岩崎技能長、平岡主事
議題	(1) 平成25年度の取組状況と西東京市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について (2) 平成26年度の取組について
会議資料の名称	資料1 第2回会議録 資料2 平成25年度の取組状況と西東京市一般廃棄物処理基本計画の進捗 資料3 西東京市一般廃棄物処理基本計画 事業一覧 資料4 平成26年度の取組
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会の挨拶</p> <p>2 会議録の確認 第2回会議録(資料1)について承認された。</p> <p>3 議題 各委員より提出された資料をもとに意見交換を行った。 (委員からの主な意見)</p> <p>「生ごみ回収について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを別途回収することは良いが、腐敗や異臭をどう防ぐのか。また、生ごみの消滅型もあるので市で推奨していくと良い。 (市の回答→腐敗や異臭を防ぐために水切りをしてほしい。) ・生ごみのモデル回収から一般家庭での回収に、どのくらいの期間を考えているのか。 ・生ごみの回収には、注意事項を市報やチラシに掲載していただきたい。 ・生ごみの排出容器は自分で用意することだが、水切りバケツを市で配布してはどうか。 ・生ごみを袋に入れると発酵して袋が膨らむので、新聞紙等を敷いて水分をとり発酵を防げば良い。 ・韓国では生ごみ回収が97パーセントで、常時生ごみを出せるところを設置している。これはごみ問題があり、国民の要望で国としてやらなければならないとなり、法律を作っているからこのような割合となっている。日本でここまでするのは難しい。 <p>「生ごみ処理機について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では生ごみ処理機の使用を推奨しているが、何人ぐらいの人が聞きにくるのか。 (市の回答→ダンボールコンポストなどの説明会をやっており、その時期は20人から30人くらい来ている。) 	

- ・生ごみ処理機の消滅型のモニターを行っているが、1日400～600グラムの生ごみが出る。そのため、5年間で1トンの生ごみが消滅することになる。値段や設置場所等に問題もあるが、市の方で率先して推進して行ってほしい。
- ・いろいろな生ごみ処理機のメリット・デメリットを一覧で比較できるようにしてもらいたい。モニターの生ごみ処理機の電気代は、月200円程度であまりかからない。
- ・他の生ごみ処理機では、1日に700グラム、ペットの糞も処理が可能。ただし、金銭面が問題なので、助成金の額をもっと増やしてほしい。
- ・生ごみ処理機を年金受給者に負担させるのは厳しい。また、生ごみ処理機の耐用年数は問題である。

「レジ袋について」

- ・レジ袋の調査を市と一緒に行ったが、行政と一緒にすることは必要である。消費者団体でもレジ袋調査を行ったが、90パーセントの人は有料でいいとの回答であった。レジ袋の値段も5円以上でもいいとの回答の人が多かった。また、レジ袋も年間約250トン処理されていると考えている。
- ・市の計画で平成25年度の家庭ごみ原単位が4グラム達成できていないが、一人約4グラム減らせば約250トンになる。そのため、次の減量はレジ袋の削減が考えられる。

「ふれあい収集について」

- ・ふれあい収集の利用者は、ごみ集積所に出せない人が対象である。市内の高齢者は、市内に約20パーセントいる。認知症の人はごみを家の中に溜めてしまうので、ふれあい収集の人たちと連携し、ごみの分別や減量を行っていく必要がある。
- ・新潟市では福祉的サポートとしてNPO法人を育てる取組がなされている。

「高齢者について」

- ・これから高齢者が50パーセントの時代になると分別が難しくなる。粗大ごみを外に出せない等福祉とタイアップして行う必要がある。
- ・横浜市では65歳以上の世帯には、100円の手数料を支払うと家から出して処分する制度がある。西東京市でも実施してほしい。

「集団回収等について」

- ・集団回収の実施について、賃貸アパートはできないと聞いた。賃貸アパートは集団回収できないのか。また、市の緑の多くは農家等なので生ごみを堆肥にできるような循環型のシステムを作してほしい。商工会の菜の花プロジェクトでは、廃油がごみになっている。それを再利用できるようにしていただきたい。
- (市の回答→賃貸アパートでも集団回収はできる。農家との連携はなかなか難しいものがある。菜の花プロジェクトは市も把握している。)

「エコ羅針盤について」

- ・金属の傘のビニールを取ることはあまり理解されていない。市で伝えたいことを何%くらい理解されているのか。また、エコ羅針盤の理解度はどのくらいであると市は考えているのか。
- (市の回答→3割程度は見ていると思う。しかし、昨年10月から小型家電の回収を始

めたが、回収できないものが当初想定していたよりも排出されていない。これは市民の方が市報等を見ている結果だと思う。）

・エコ羅針盤は市報に挟まれているので見過ごしている人は多い。市報とは別に配布することはできないのか。

（市の回答→配布の委託料の関係もあり、今後の検討課題である。）

・配布する人の立場やPRする工夫を考える必要がある。

・できるだけとの表現があるが、汚れた物を出される心配はないか。駄目な物をしっかり掲載する必要がある。

「平成26年度の取組について」

・平成26年度の重点取組はどれか。

（市の回答→平成26年度の重点取組は、生ごみ回収・資源物の拡大・事業系ごみの減量に向けた取組になる。）